

経営一転語 93 新事業は社長自ら身を挺してするもの

新事業というものは、第一に、社長自ら身を挺してするものです。

ともすれば、社長の中には、新事業に自らは携わろうとせずに、従業員任せ、新事業開発室任せ、工場長任せ、営業員任せ、などと他人任せにする方が、かなりいらっしゃいます。

難しく、困難を極める新事業は、他人任せ、社長自らは永年手慣れて、軌道に乗った事業に携わるといのは、どうでしょうか。

やさしい方は自分がし、難しい方を他人に任せるとい姿勢では、成功など、夢のまた夢でしょう。

従業員に任せてもいいような、やさしい新事業は、誰でもできますので、はじめから「我が社の将来の収益」など、期待できないものです。

また、新事業ほど、従業員は反対するものだと思っ方がよいでしょう。「今までしたことがない」、「過去して失敗した」、「誰がするのか」、「リスクが大きい」など色々な反対意見が出るでしょう。

しかし、将来芽が出る新事業ほど反対意見が多いし、リスクのあるものです。

また、誰もしていないということは、それは先見の明があるということでもあります。全員反対しても押し切ってやるぐらいの覚悟も必要でしょう。

このように、新商品・新事業が成功するか否かは、そのまま企業の将来の運命に直結していきます。

社長の役割とは、企業の未来を切り開き、未来を造ることにあります。

そうであるなら、社長自ら新事業に取り組み、総指揮をとっていくという姿勢が求められるでしょう。